

巻頭言 「プリーチ・ザ・ゴスペル！」

宇野 元

40年前にのんきな若者がアメリカ旅行をしたとき、いちばん長く滞在したのはペンシルベニア州でした。そこに彼が世話になった宣教団体の事務所がありました。のどかなアメリカの田舎の生活。車で遠くない所には、20世紀以前の生活を守るアーミッシュの村があります。

いちど、引退した宣教師たちの住宅を訪問しました。知り合いの宣教師の父上をお見舞いするのが目的でした。ひろい敷地に多くの住まいが並んでいました。中央には立派な建物があり、一階が食堂、上には障がいのある方たちの部屋が設けられていました。その一部屋に入ると、初めてお会いするお父上がベッドに横になっておられました。東洋からの訪問者はなにかカタコトをしゃべったと思います。同伴者が、この若者は神学生だと紹介しました。するとご高齢のお父上は、彼をしっかりと見つめ、横になったまま、けれども力づよく、繰り返し言われました。Preach the Gospel! プリーチ・ザ・ゴスペル! 福音を説教しなさい!

キリスト教会はなんのために存在するのか。なにが神から委託されているのか。イエス・キリストの福音を、注意深く、責任をもって伝えること、そう答えることができます。注意深く、それゆえ、聖書の理解について教会の過去の取り組みに学ぶこと。責任をもって、すなわち今の時代において、未来を作るために苦闘する世界の一員として福音を伝えることであると。

アメリカの歴史は、アフリカ系アメリカ人の苦難の歩みとともに作られています。またイエス・キリストを主と仰ぐアフリカ系アメリカ人の群れの歴史が、長くつづく苦難のなかに作られています。マリリン・ロビンソンの作品にでてくるメンフィスのアフリカ系メソジスト・エピスコパル教会について調べていたら、その教派の宣言文に新鮮な心のときめきをおぼえました。それが上述の記憶をよみがえらせてくれました。教会の使命を列挙する言葉の最初にこう記されています。プリーチ・ザ・ゴスペル。福音を説教する。日本キリスト改革派教会の場合も、そして芦屋教会も同じでしょう。困難な世界のなかに、第一に聖書の証を囲む群れとして置かれています。御言葉による礼拝と神賛美により、イエス・キリストの福音を説教する器として。